



ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093 (201) 0680 FAX (201) 7354
第 323 号

「復活の力」

マヘル神父

三月の中頃から、教会のスイセンがそれは見事な花を開き、今はチュウリップが可愛らしく春の訪れを告げています。自然界は、足早く、復活祭を迎えたかのようでした。寒い頃、何人かの花好きな方が、お世話してくださったお蔭です。本当に、ありがとうございました。少し歩けば、遠賀川の川辺を散歩できるし、花を愛で川のせせらぎを聴きながら、祈ることのできる私達は幸せです。

「過ぎ越しの三日間」

キリストは救いの業を、とりわけ過ぎ越しの神秘によって、成就されました。そのため、キリストが死を過ぎ越して新しい命に移られたことを、三日間全体で記念する「聖なる過ぎ越しの三日間」は、典礼暦1年の頂点となっています。この記事を読むとき、2014年の復活の祝いを行った後です。皆さん、毎日の生活におきる、たとえば、「悲しい事故」「辛い別れ」「喜びあふれる門出」など、出来事を通して、神様の私たちへの愛をもっと深く悟ることが出来るように、聖堂で行列したとき、「私は、イエス様によって救いをいただいた」「私はイエス様の弟子です」と、はっきり意識できたと思います。「聖木曜日」には、イエス様が与えてくださった御聖体、そして司祭職の恵みを新たに感謝し、「聖金曜日」には御受難の苦しみの事実を悲しみのマリアと共に

お苦しみたいと望み味わいました。そして、マグダラのマリア、聖母マリア、弟子たちと復活の喜びも味わってきました。

「復活節」

復活の主日から復活節が始まり、聖霊降臨の主日まで50日間続きます。徹夜祭に洗礼を受けた新しい仲間を迎えた教会が、新しい気持ちで主の復活を喜び祝い合う季節です。

弟子たちについて考えてみると、キリストと会う前は、たとえば漁師としての人生の夢、期待などを持っていたでしょう。そしてキリストに出会って、それらを捨て、キリストと共に生きる生活に新しい夢や期待を持ち始めた三年目、それを今後は捨てたのではなく、奪い取られてしまったのです。しかし、復活したキリストに一度（ひとたび）出会った弟子は、力強く、歩み始めたのです。「復活の力」を信じた弟子たちのように、私たちもこの力によって、支えられることに気が付けば、人生は変わるでしょう。（2面下へ続く）

エリック神学生	2面
洗礼式	3面
委員会等報告	4面
パウロの歩いた道	5面
白濱神父黙想会報告	6・7面
聖書研究回の紹介	7面
おしらせ	8面
教会学校	8面

よろしくお願いします

エリック・デ・グスマン神学生

カトリック水巻教会の皆さん、初めまして。わたしは大阪教区の神学生、エリック・デ・グスマンと申します。出身はフィリピンです。今年は新学科 1 年生で、神学院に入ってから 3 年目になります。神学院生活の最初の 2 年間で東京で過ごし、哲学を勉強しました。

10 年前に日本に来て、2004 年から 3 年間、山形大学で数学を勉強しました。その後は三重県に移って、2 年間、車の部品会社で働きました。自動車のワイヤーハーネスの原価企画を担当しました。それから 3 年間、大阪のフィリピン総領事館で事務員と通訳の仕事をしました。この間、大阪の教会に通いながら、神父になる志が固まってきました。

日本に来る前は、数学を専攻して、フィリピン大学を卒業しました。卒業後はパソコン関係の仕事を見つけ、2 年間プログラマーをしていました。大学を出るまで、わたしはただの田舎の人間でした。小教区の巡回教会で育てられ、レジオ・マリエのメンバーとして小教区のお手伝いをさせて頂きました。実は、わたしが教会に親しくなったのは、母と町のカテキスタのお陰でした。

わたしと兄弟たちは母にミサに与るように毎日曜日に言われていました。そして、カテキスタはわたしたちに旧約聖書の様々な物語を教えてくださいました。そのカテキスタはレジオもやっていたので、私たちもレジオに誘われました。わたしは、小学 6 年生のときから就職をするまで、約 11 年の間レジオのメンバーでした。レジオで家庭、病者、児童養護施設訪問、ロザリオとミサの普及活動などに携わっていました。

司祭召命はどのように始まったかと言いますと、わたしは小学 6 年生のときに、ミッションスクールに通っていました。ある日、校長先生である神父様に小神学校の聖書クイズ大会に出るように頼まれました。クイズ大会で優勝した後、同じ神父様に「神学校に入ってみたらどうか？」と言われたときに、「こんな自分にも召命があるのか」という気持ちに初めて気付きました。同じ年に所属の小教区に小聖堂ができ、わたしはそこでご聖体であるイエスによく話していました。その気持ちをずっと心の中に収めてきました。



(1 面から続き)

復活を信じる私達は、人生の苦しみ、失敗などの戦いのとき、神様への信頼の心を待ち続け、また、穏やかな日々は、感謝と賛美の心を捧げながら、希望をもって生きてゆくことが出来るのです。「キリストの復活」が想像、神様は私達の思いがけない方法で呼び出してくださるという希望に、溢れる信仰を保ち続けることが出来るように祈りましょう。神様の慈しみに信頼し、その導きを期待する心があればあるほど、何かが起きても受け入れることは出来るし、また、平凡な日々に見える毎日が、実は、どれほどの恵みに満ちた日々なのか、わかるでしょう。

洗礼式

4月12日(土)復活の徹夜祭において、中村順一さん(代父、宗友次さん)、樽角友祈ちゃん(代母、樽角真美さん)の洗礼式が行われ、中村さんには加えて堅信式が行われました。下記の写真をご覧ください。今後も、このような洗礼が続くことを期待します。



樽角友祈ちゃんの洗礼、お母さんの樽角司さんと。赤ちゃんは泣くこともなく、無事挙行。

二名の洗礼式を終えた時。
左から、友祈ちゃん、母・司さん、
代母の真美さん、父・務さん、
中村さん、宗さん。



洗礼式のあと、中村さんに堅信の塗油が授けられる。

委員会等報告

2014年4月分

4月度小教区委員会

4月6日

1. 前委員会の議事録確認(抜粋で記述)

地区集会の内容について

- ①新地区委員の紹介
- ②地区から出た意見 ・外壁工事・バザーの再開・地区再編成を求める意見・高齢者のミサ参加を黙想の家で行えないか

2. 先月の行事報告

- ・3月14日(金)ホームレス支援炊き出し
10名程参加
- ・3月15日(土) 16日(日)
カトリック神学院 白浜神父
- ・3月28日(水) 共同回心式
10時～ 約50名参加
19時30分～ 約40名参加
- ・3月30日(日) 聖書講座、深堀神父

3. 議題

- ①新役員について
 - ・新教会役員・新地区役員メンバーがほぼ決まったので総会で紹介
- ②2014年度年間行事計画について
年間行事計画(総会資料)の確認
(出された意見)
 - ・地区集会の回数を増やしてほしい
→予定以外に各地区で計画して良い
 - ・小教区委員会を毎月にしてほしい
→新役員で話し合って決める

4. 各委員会・各地区委員から

外壁塗装に関しての経過報告

- ・見積りを5箇所から取った。
700万～800万円
- 内容についてかなりばらつきがあり、再度

工事内容の共通見積もりを取るようにしたい。また教会内で専門部会(メンバーは推薦、または役員から選ぶ)を設けてその中で協議を進めていくようにすることを確認。金額については、大体近い金額が提示されているが、詳細部分での再見積もりを取るようにしたい。

最初の設計会社の見積もり報告(調査費用)について5万円かった。

- ・屋根に業者と教会から何人か上って状態を確認した結果、全塗装する方がよさそう。
- ・改修工事すること・しないことの仕分けをする必要がある。(2階入口のコンクリートの盛上り、スロープの手すりの破損など)

5. その他

- ・信徒会館で、電気(室内灯・ホットカーペット)やエアコンのつけっぱなし、信徒会館からトイレに行くドアの鍵が開いていることがある。→使った人が確認。

6. これからの活動

- 4月17日(木)聖木曜日 19時30分～
洗足式に出る12人を決める。
- 4月18日(金)聖金曜日 19時30分～
- 4月19日(土)復活前夜祭
- 4月20日(日)復活の主日 10:00～
神学生歓迎・洗礼受洗者祝い 茶話会
- 4月27日(日)納骨堂利用者集会
- 5月11日(日)信徒総会
- 次回小教区委員会 4月27日(日)

パウロの歩いた道 No.3

聖書に出てくる地名で今も存在する町の中で、ガザとダマスカスでは今も紛争が続いています。毎日のニュースで、ダマスカスに空爆があったというニュースを見るたびに、聖書に出てくる世界遺産の古い街並みが戦争で破壊されてしまうのではないかと心配しています。

パウロはエルサレムでキリストの教えに従っていた人たちの教会や家を荒らし回り、人々を牢に送り込んでいました。**(使8章3節)** そして、ダマスカスにいる主の弟子たちを捕まえるためにエルサレムを出発しました。

ダマスカスは紀元前2000年くらい古くから栄えた町でした。そこにはたくさんのユダヤ人も移り住んでいて、ある本には1世紀ころは5万人くらい住んでいたと書かれています。

このダマスカスへの旅でパウロは大変な事件に出会いました。**(使9章1節～19節)** 今まで主の弟子たちを迫害していた人が反対の立場になったのですから、本人も大変だったでしょうし被害を受けていた人たちも信じられなかったと思います。パウロ自身も自分がキリストの敵であったことを隠さず「**あなたがたは、わたしがかつてユダヤ教徒としてどのようにふるまっていたかを聞いています。わたしは、徹底的に神の教会を迫害し滅ぼそうとしていました**」**(ガラテヤ1章13節)**と書簡に書いています。

一般にこの事件のことは「**サウロの回心**」と教会ではいいますが、聖書には回心という言葉はありません。しかし、回心と表現されるべき出来事であったと思われるのです。

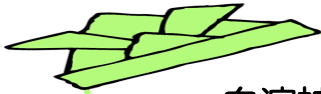
パウロがこれらの出来事に会った後、ダマスカスの町の中で、アナニアという弟子によって救われました。

救われたパウロはいろいろな人と出会い話しました。しかし、今までパウロに迫害されていた人たちがパウロを信じる訳がありません。そのためパウロはアラビアに数年行きました。

アラビアとはどこでしょうか。いろいろな本を読みると、その当時交通の要所として栄えていたヨルダンの「ペトラ」ではないかと書いてあります。その当時はここら辺りからアラビアと言っていたようです。ペトラであればパレスチナからも余り遠い町ではありません。そのためパウロが逃げて行った町であると思われるのでしょう。

ペトラはかなり昔に様々な原因で町が滅びてしまいました。その後、砂漠から狭い岩の谷を抜けて行くところにあるため人々に忘れられてしまっていました。近年、この町の遺跡が再発見され一躍注目されることになりました。今では世界遺産に登録され、世界中から観光客が訪れています。

アラビアから出たパウロは故郷のタルソスに直接帰りました。このあたりの記述は、使徒言行録やパウロの書簡に切れ切れに書いてあるため、全体を比べなければ良く分かりません。私たちにとって有難いことに、このことについてはたくさんの聖書学者や神父たちが分かりやすい解説書を書いてくださっています。このような本を読むと、パウロの偉大さが身近に感じることができるのです。



白濱神父黙想会 3月15日(土)～16日(日)

水巻教会聖堂において行われた黙想会を <数回に分けて> お伝えします。

マレーシア航空機の行方不明事故で思い出しましたが、日航ジャンボ機の墜落の15分前、手帳に手記を記した人が居て「15分の後に死ななければならない。静かに人生を振り返る。今となっては、良いことばかりが思い出される。頂いた無数の恵みに感謝」と書いてあったといひます。

私(白濱神父)の一年上の先輩の方が言われたことですが、父上が亡くなられたとき、もはや言葉が出ない折り、先輩の手のひらに字で言葉を書き、「ありがとう」と書かれて、帰天されたそうです。

一人の小学生の男の子を、母が一人で育てていました。小遣いが少なく、子どもはなんとか多くの小遣いを貰おうと考えました。そこで、「手伝い300円、風呂掃除300円、その他の手伝いを合わせ、1000円請求。」と書き置き。これに対して母は「食事を作るのは無料、あなたの看病は無料、汚れた服を洗うこと無料」と対抗。母の温かい愛は、神も同じ。神様が支えています。まさに、無料で。

さて、白濱神父は上五島の出身。島にはカトリックの部落と、仏教の部落があり、仲がうまくなかった。司牧をしていた神父は、両者の関係を考え、まず「生活で仲良くする。日頃から挨拶すること」と言っていました。

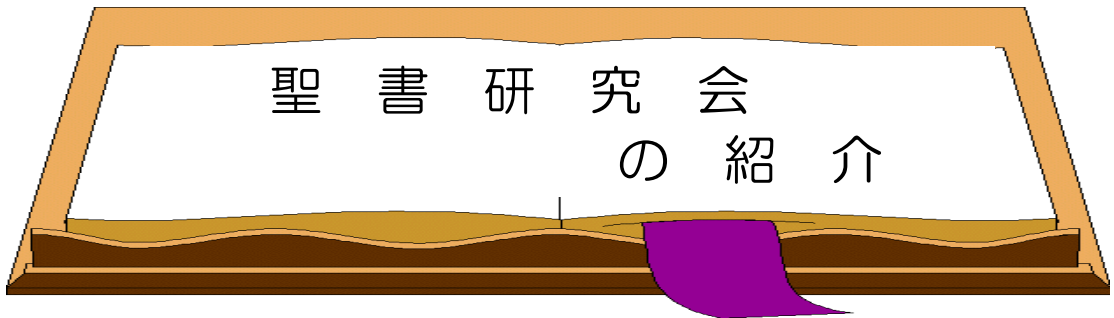
仏教徒が集会をやっていた公民館に、神父が出掛けたので、仏教の人々はびっくりしたが、仏教の人からは次の様な言葉が。「神父さんにお願ひがある。あなたが信じている神様をお教え頂きたく、ここで一目、見せて欲しい。」

神父は困って、「すいません、1ヶ月待ってください。」と言った。1ヶ月経って、約束した日が来て、公民館に行ったが、実は、この難問にどう答えるかをまだ決めていませんでした。そこに、ゆで卵が置いてありました。そこで、聖霊の働きがあり、ハット気がつきました。

神父は言いました。「おいしそうな卵ですね。皆さんで頂きましょう。」ゆで卵を食べた仏教徒たちに、神父さまは「美味しいですか」と尋ね、仏教徒達は「美味しいです。」と言いました。そこで神父は「それを見せてください。」と言ひ、仏教徒はかじったゆで卵の黄身を見せました。神父さまは「そうではなく、美味しいという味を見せてください。」と言ひました。

みんなは「そんなことは無理です。」と言い、そこで味は見えるものではないことが分かりました。神父は語りました。「皆さんが、神様を見たいとおっしゃったのは、『味が見たい』私というのと同じです。神様は味わわないといけません。」

神は私の中に住んでくださっているもの。これを感じることはあっても、信仰の恵みは見えることはできません。しかし、神を見てみたいという願い。それを神は叶えてくださったのです。2000年前、ユダヤの、イエス、マリアとヨゼフの家庭。神から遣わされたイエスが、神を私たちに伝えたのです。
(次回へ続く)



水巻教会には、信徒の関わる多数の聖書研究会があります。昼の時間帯や夜の時間帯、教会内や教会外など、様々な形で有意義な時間が持たれています。それぞれの参加者に、しばらく輪番で「からしだね」に紹介していただきます。第1回目は「聖書100週間」です。



聖書100週間

この会は、マヘル神父様の指導のもと、毎週水曜日に集まって、開いています。参加者は、毎回12～13名が集まります。黒崎教会の方も、2名来られています。進め方は、既定のプログラムに沿って、全聖書を、2年以上かけて通読します。

まずは、キリスト者として、聖書に親しみ、聖書に関する知識を豊かにしよう、という目的があります。九月にスタートして半年余り、約20週が過ぎました。各自は、その週の定められたところを、自宅で読んできて、集まりの場では、夫々が感じたことを述べる、分かち合い、主体になります。

週に読む範囲は、多い時には、15章(30頁以上)、になることもあります。個人で、通読の計画を立て、完了まで読み切ることが出来るでしょうか、今の自分には自信がありません。皆さんと連帯意識が大きな力となっています。

また、みなさんの言葉が、私の不足している知識を補ってくれますし、考え方も広くしてくれます。皆さんに感謝。

山本栄



★信徒総会★

日 時：5月11日(日) ミサ後

場 所：水巻教会 聖堂

信徒総会は、今年度の教会の方針等を話し合うものです。是非、信徒の皆様の参加をお願いします。

★5月は聖母月★

5月は聖母の月です。そこで、ミサの前にロザリオを唱えます。午前9時から始めます。司会が先唱します。

人-ひと

★ふれあい会よりお願い★

日曜日のミサ後に、お茶やコーヒーを用意して出している、ふれあい会です。お家に余っている、コーヒーやクレープ、ココア、紅茶、砂糖、お茶の葉などがありましたら、ご寄付をお願いします。は、是非ご出席をお願いします。

【洗礼】おめでとう

◇ヨゼフ 中村 順一さん

(折尾地区)

◇テレジア 樽角 友祈さん

(海老津地区)

お二人のために、お祈りください。



教会学校のページ



4月13日

- 聖週間中の持者奉仕の練習をしました。
- 山田 蓮くんの紹介
新しく教会学校の仲間入りをしました。
- イエス様のご復活について、
お話をしました。

